

岩手・宮城に新たな拠点を設置します

岩手と宮城に、連合救援ボランティア活動の新たな拠点が加わります。岩手では、5月10日の第6陣出発に合わせ、気仙郡住田町の五葉集会センターを「住田ボランティアセンター」として、新たな拠点とします（25～30名規模）。これによって大船渡や陸前高田地域へのアクセスが短縮され、活動時間が増えます。また、18日には、宮城県石巻・東松島地域での活動の新たな拠点として、遠田郡美里町の遠田地区労働会館が新たな「美里ボランティアセンター」として加わります（30名規模）。詳細は別途資料をご参照ください。

活動レポート ゴールデンウィーク中も各地で精力的に活動！

岩手

仮設住宅の入居を支援 =宮古=

5月7日、連合宮古ボランティアチームは、宮古市では最初の入居となった愛宕公園の仮設住宅81戸で、食器類の台所用品をはじめテーブル、物干し竿などの家財道具の搬入作業を手伝いました。家電製品（冷蔵庫、洗濯機、テレビなど）などは既に前日までに運び込まれており、本日の生活用品の搬入で基本的な家財などは揃った模様です。仮設住宅に入る方々も「生活用品が届きたいへん嬉しい。ボランティアの方々に感謝します」と声をかけていただきました。

この日は、滝沢村の「大沢さんさ踊り保存会」の皆さんが避難所など4箇所を慰問し踊りを披露。夕方には宮古拠点でも、墓目（ひきめ）地区の住民の方をお呼びして披露していただきました。連合ボランティアメンバーも踊りに加わり、たいへん盛り上がり、疲れが癒されました（写真）。

8日には、田老地区で泥の撤去および土嚢袋詰め、整理作業、宮古市内で側溝の泥出し、津軽石地区では床下の泥出し、倒れている家具の搬出を行いました。なお、9日は全県でボランティア作業が休止となったため、拠点の布団干し、寝床のブルーシートの張替え、荷物整理などを行った後、被災地を視察しました。



■仮設住宅に生活用品を運び込む



■踊りの輪に加わり、一緒に盛り上げ

福島

●いわき拠点

連日いわきのボランティアセンターでの資材担当、市内各所での片づけ作業を行いました。いわきボランティアセンターの資材班は、毎日250～900名の一般ボランティアへの資材の貸出、返却の運営、管理を行ないました。連休後半には特に一般ボランティアの数が増えました。また、小名浜にある福島臨海鉄道の線路周辺でのゴミ撤去、永崎海岸沿いの側溝での土砂撤去、久ノ浜地区や四ッ倉地区の民家敷地で片づけ作業を行ないました。

現地から 5月7日に側溝の土砂の撤去作業を行っていたところ、近隣の民家から声がかかり、その人の駐車場のガレキの撤去を依頼された。ボランティアセンターに連絡し、すぐに作業に取り掛かってよいとの承諾を得たため、駐車場の作業も行った。側溝はすべて終了し、家主からは作業終了が確認された。駐車場は8割程度終了し、翌日以降は他の一般ボランティアに引き継ぐことになった。駐車場の家主からは「天使にみえます」との感謝の声をいただいた。



■フリ網の撤去・解体(相馬・3日)

●会津拠点

(郡山班) 郡山市の「ピックパレットいすゞ」(現在1300名が避難生活)敷地内で「野菜の水洗い班」と「カット班」に分かれて翌日の食材の仕込み作業。また、炊き出し班を3ヶ所に分散して派遣しました。地元ボランティアセンター、NPOと協力し、順調に業務を遂行しています。

(会津班) 現地ボランティアとともに、体育館内における物資搬入、仕分け、受付・誘導などを行いました。

現地から 「避難者の方々は連日同じ内容の弁当が支給されており、野菜が圧倒的に不足している。野菜スープなどの炊き出しがいかに大切な支援なのか良くわかった」「5月5日はこどもの日ということで、郡山の炊き出し先では鯛焼きとおもちゃをプレゼント。会津若松でも、大熊町から避難している子どもたちに「かぶと」を作り、好評だった」「ゴールデンウィーク明けはボランティアの数が大幅に減るため、炊き出し支援の日程表に空欄が目立つ」「大規模避難所では間仕切りがないため避難者のストレスが増していることもあり、こうした状況を承知した上での活動が必要」

ご注意ください! ～ケガ防止のために～

1. クギ、折れた木材などの鋭利物 —— 接触、突き刺し、踏み抜きに要注意

津波で流された物の中には、折れた木材・物干し竿・鉄筋など鋭利な部分が残されています。割れたガラスやクギは、ガレキだけでなく土砂・ヘドロにも混じっています。これらの鋭利なものに十分気をつける必要があります。土砂の除去作業にあたっては、土のうを持った時に切り傷を負わないよう、持ち方に注意しましょう(土のうの底を手で抱えない等)。耐油性ゴム手袋は連合で準備していますが、ガラス等や割れた木材を扱う作業では作業用の革手袋が重宝しますのでご用意を(1,000円前後で購入可能)。



2. 長時間無理な姿勢を続けない —— 適宜休憩・交替を

屋内での泥出し作業を行う場合には、狭い場所で長時間同じ姿勢で作業するケースも出てきます。腰痛などを防止するため、作業の交替、こまめな休憩を行きましょう。

3. 声を掛け合い安全確認 —— 不注意によるケガ・事故を防ぐ

連日の作業と、慣れない場所・作業内容での緊張によって、疲労は確実に蓄積されます。疲労は注意力を落とします。不注意によるケガや事故を起こさないよう、危険が予測される場合や、家具の移動などの際には、互いに声を掛け合い、安全を確認しながら作業しましょう。

◆宮城・千厩拠点に行かれる方へ マイマグカップの持参を!

千厩拠点では、現在紙コップを使用していますが、毎日出るゴミの量が多いことから、マグカップを使用することとしています。ゴミ減量のためご協力をお願いします。



その他の拠点でも、行政指定のゴミ袋が不足しているとの情報があります。「ペットボトルはつぶして捨てる」「弁当ガラの分別整理」「水筒・マグカップの持参」など、ゴミ減量に工夫しましょう。